

## ケアをめぐる交渉においてヤングケアラーの直面する制約の検討

ー子ども期にケアを担った者へのインタビュー調査を通してー

○ 北海道大学 亀山 裕樹 (009792)

[キーワード]: 児童福祉、ヤングケアラー、交渉

### 1. 研究目的

本研究の目的は、子ども期にケアを担った経験のある者が、ケアをめぐる利害関係を持ちながらどのように家族内の交渉を試み、どのような制約に直面したのかを検討することである。この検討を通して、なぜ子どもがケア役割を継続せざるをえないのかを考察する。

現代の日本には、家事やきょうだいの世話、介護などのケアを日常的に行っている子ども、いわゆる「ヤングケアラー (young carer)」が存在し、その教育や社会参加の機会の制約が取り上げられている。

国内のヤングケアラー研究では、子どもがケアを担う要因として主にケアの担い手の不足(澁谷 2012; 濱島 2021)が挙げられてきた。しかしながら、ケアの担い手の不足は他の家族員から子どもがケア役割を期待される要因にとどまるのであり、子どもがケア役割を継続せざるをえない要因を説明するには若干の距離が残る。

### 2. 研究の視点および方法

ケアを担うことは、子どもを含むすべての家族員にとって、生活上の必要を満たすという家族全体の協調的な目標であると同時に、一般にケアの担い手自身の利益と対立しうる。言い換えれば、あらゆる家族員が子どもの利益にとって最善のかたちで家族内のケアを配置するとは限らず、利他的なケアの配置を試みるにしても限界があると考えられる(Aldridge & Becker 1994)。そこで本研究では、ケアをめぐる利害関係を持ち交渉に参加する主体として子どもを捉える。

18歳未満のときにケアを担った経験のある者7名を対象に、半構造化インタビューを実施した。調査協力者は、当事者向けオンラインコミュニティ、当事者講師紹介ネットワーク、および調査者の個人的なネットワークを通じて募集した。2021年9月から10月にかけて、1対1の半構造化インタビューを、1時間半程度1回ずつ、オンラインビデオ通話にて行った。オンラインビデオ通話のレコーディング機能を用いて録音を行い、録音をもとに逐語録を作成した。

### 3. 倫理的配慮

調査の実施にあたり、「北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査」の承認を受けた(受付番号21-17番)。調査への協力は任意であり、答えたく

ない質問は拒否できること、プライバシー保護に配慮し個人の特定を避けること、途中での休憩や中止も可能なこと等を書面を用いて説明し、同意を得た。

#### 4. 研究結果

数名の調査協力者が、子ども期に他の家族員にケアに参加してほしいと考えていたが、他の家族員をケアの担い手として頼ることには困難があった。特にその交渉は、意識的かどうかは別にして、他の家族員が帰宅時間を遅らせるなどして物理的に家に不在であることを通じて行われた。また、子どもが家族員のケアの必要を認識し配慮するとき、家族外のサービスを利用しないといったケアを必要とする人が持つ要望を優先させることにつながると思われた。

加えて、調査協力者の発言から、子どもは制度やサービスに関する情報を十分に入手できないことが示唆された。さらに、数名の調査協力者が、制度やサービスの利用に関して、親など他の家族員の取り扱う領域とみなし、その家族員に任せて関与しないことを受け入れていた。このとき子どもは、潜在的に利用できる制度やサービスのすべてを家族が利用しているかどうかについて知ることができず、その意思決定に参加することもできない。

調査協力者は成人期へ移行するにつれて、大学等での学びや第三者との関わりを通じて、制度・サービスに関する情報を入手しその利用を試みたり、離家などケアから距離を置く選択肢を意識したりしていた。あるいは、家族内の立場を向上させケアをめぐる意思決定に参加できる場合もあった。

#### 5. 考察

子どもと、ケアを必要とする人を含む他の家族員とのあいだに不均衡な権力関係が生じており、そのような状況での交渉を経て、子どもの不利益となるかたちで家族内のケアの配置が形成されているという可能性が示唆される。そしてこのときなおケアの必要を満たそうと子どもが試みるならば、子どもにとって当てにできるケアの担い手はごく限られ、利用可能な担い手がただ子ども自身のみになり、自らケア役割を引き受けるという可能性が認められる。

したがって、家族員の状況やケアをめぐる選択に関する子どもへの情報提供や、子どもと他の家族員とのあいだの交渉に介入し調整できる支援者の関わり等が求められる。

#### 引用文献

澁谷智子 (2012) 「子どもがケアを担うとき—ヤングケアラーになった人／ならなかった人の語りと理論的考察」『理論と動態』5, 2-23.

濱島淑恵 (2021) 『子ども介護者—ヤングケアラーの現実と社会の壁』角川新書.

Aldridge, J. and Becker, S. (1994) *My Child, My Carer: The Parents' Perspective*, Loughborough University.